

感 染 症

相双地域感染症発生動向調査週報(2025年第31週)

(令和7年7月28日～令和7年8月3日)

令和7年8月7日

定点報告(上段: 定点当たり／下段: 報告数)、全数報告(報告数)		2025年					2024年	2023年
区 分	疾 病 名	28週	29週	30週	31週	合計	合計	合計
定点報告	インフルエンザ	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1,216	1,616	2,660
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	2.67	4.00	4.00	2.67	－	－	－
		8	12	12	8	886	3,622	2,663
	RSウイルス感染症	2.00	2.50	5.50	2.00	－	－	－
		4	5	11	4	107	309	425
	咽頭結膜熱	4.00	0.50	1.00	－	－	－	－
		8	1	2	0	74	337	129
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50	3.00	2.50	3.00	－	－	－
		5	6	5	6	191	657	237
	感染性胃腸炎	0.50	－	－	－	－	－	－
		1	0	0	0	425	610	988
	水痘	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	2	6	1
	手足口病	－	－	－	0.50	－	－	－
		0	0	0	1	7	952	129
	伝染性紅斑	3.50	5.00	1.00	2.50	－	－	－
		7	10	2	5	75	0	8
	突発性発しん	0.50	0.50	－	－	－	－	－
		1	1	0	0	42	182	266
	ヘルパンギーナ	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	19	319
	流行性耳下腺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	8	13	15
	急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	9	13
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	14	1	3
	クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	4	16	1
	無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	14	19	10
	新型コロナウイルス感染症(入院)	－	－	1.00	2.00	－	－	－
		0	0	1	2	26	120	19
	急性呼吸器感染症(ARI)	60.67	74.00	68.00	45.33	－	－	－
		182	222	204	136	3343	－	－
全数報告	百日咳	4	13	6	8	85	0	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	RSウイルス感染症 と 伝染性紅斑 の 流行 が見られます。
全数把握疾患	百日咳 8名(乳児1名、学童2名、10代5名) の報告がありました。

新型コロナウイルス感染症	相双地域は前週と比較して減少しましたが、県(県内総数)は前週と比較して増加しました。 他疾患と同様、基本的な感染対策を心がけましょう。
伝染性紅斑	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して増加しました。警報は続いています。 伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症です。感染経路は飛沫感染や接触感染で、約10日の潜伏期間の後、発しんが両頬から体・手・足に拡がります。過去に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫や流産を生じる場合がありますため注意が必要です。予防には手洗いや、マスク着用等の基本的な感染対策が有効です。
RSウイルス感染症	相双地域は前週と比較して減少しましたが、県(県内総数)は前週と比較し増加しました。 RSウイルス感染症はRSウイルスによる呼吸器感染症です。感染経路は飛沫・接触感染で風邪様の症状や肺炎等の呼吸器疾患を生じます。2歳までにほぼ全ての小児が感染するとされていますが、生後間もない乳児が感染すると重症化する場合があります。手洗い、咳対策、定期的な換気等の基本的な感染対策を心がけましょう。
手足口病	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して増加しました。 増加傾向が見られます。手足口病は、ウイルスの感染によって起こる感染症で、夏季において小児を中心に流行します。感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、感染後3～5日で口の中、手足に水疱性の発しんが現れます。予防のために、適切に排泄物を処理し、手洗いを徹底しましょう。
百日咳	本県で69名の報告がありました。 百日咳菌によって引き起こされる、激しい咳を伴う病気です。特に乳児では重症化のおそれがあり、早期のワクチン接種を推奨します。乳児のいる家庭では、保護者を含めた家庭内の感染に注意しましょう。 感染経路は飛沫感染や接触感染とされており、手洗いやマスクの着用など基本的な感染対策が有効です。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2025年第31号